



All Japan Road Race Championship 2021

RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Motor Sports RT HARC-PRO. Media Infomation

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦
スーパーバイクレース in 岡山

岡山県・岡山国際サーキット (1周=3.747km)

9月4日(土): 公式予選・JP250 決勝

天候: 曇り コース: ドライ

9月5日(日): 決勝 天候: 晴れ・曇り コース: ドライ

観客動員数: 4,700人 (2日間合計)

ST1000クラス #5 榎戸育寛

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: DUNLOP

予選: 8番手 (タイム: 1分34秒988)

決勝: 4位

J-GP3クラス #3 成田彬人

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 8番手 (タイム: 1分44秒758)

決勝: 11位

ST600クラス #35 千田俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 20番手 (タイム: 1分38秒862)

決勝: 19位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 26番手 (タイム: 2分02秒116)

決勝: 24位 (インタークラス: 12位)

International Circuit
OKAYAMA





All Japan Road Race Championship 2021 RACE REPORT

SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



SDG 榎戸育寛が追い上げ 4 位に入賞！ 暫定ランキング 3 位をキープ！！



2021年シーズンの全日本ロードレース選手権も、いよいよシリーズ終盤戦に突入。9月は、今回の第6戦岡山と第7戦オートポリスがあり、オートポリスが最終戦となる。コロナ禍のため緊急事態宣言が出されている中での開催となったが、岡山国際サーキットを始め、関係者は感染対策をした上でレースウィークは進んでいった。

前週に行われた公開テストで榎戸育寛は、最初のセッションで最終コーナー進入で転倒し、出鼻をくじかれていたが、ケガはなく、その後、着実にタイムを縮めていった。成田彬人も、前戦鈴鹿でのデータを検証し、岡山に乗り込むと、マシンのフィーリングもよくなり、初日は4番手、2日目は6番手と今シーズン一番いいテスト結果となっていた。千田俊輝は、岡山をST600で初めて走ることもあり、少しでも多く周回したいところだった。

逆にポジションを上げて行ったのが、SDG Motor Sports Jr. teamの小合真士だった。成田は何とかゴールにたどり着き11位。小合は、7位でフィニッシュしている。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

続いて行われたST1000クラス。榎戸はスタートで順位を上げることを狙っていたが、逆に失敗してしまいオープニングラップは9番手。そこから1台、また1台と前を行くライダーをかわし、13周目には6番手に浮上。さらに残り2周で前を走るライダーが転倒したため5位でチェッカーフラッグを受けた。さらに前でゴールしたライダーにペナルティがあり、正式リザルトは4位となった。



ST1000 #5 Ikuhiro Enokido

レースウィーク初日となった金曜日は雨模様となった。特に午前中は雨足が強く、土曜日は曇り予報となっていたこともあり、J-GP3クラスでは、走行を見合わせるライダーもいるほどだった。榎戸も成田もウエットでのフィーリングが今ひとつで、思うように攻めることができないでいた。

土曜日は朝方まで雨が残り路面はウエットコンディションからスタート。J-GP3クラスの公式予選のころには、ほぼ乾いて来ていたが、ウエットパッチが残っており、路面コンディションがよくなるセッション終盤が勝負になっていく。予選は、成田、榎戸が共に3列目の真ん中となる8番手グリッド。千田は20番手につけた。



J-GP3 #3 Akito Narita

19周で争われたJ-GP3クラスの決勝。成田は、オープニングラップを10番手で終えると集団の中で周回。ポジションを上げて行きたいところだったが、マシンに問題が出てしまい苦しい状況になってしまう。

ST600クラスの千田は、前戦鈴鹿の初日に転倒負傷したため、6月の筑波ラウンド以来のレースとなった。予選を納得いく形で終えられなかったため、朝のウォームアップ走行、そして決勝までの時間で改善すべきことを考えると、決勝では、2周目に予選タイムを上回る自己ベストをマーク。混戦を戦い抜き19位でチェッカーフラッグを受けた。



ST600 #35 Toshiki Senda

赤間清のエントリーしているMFJ CUP JP250は、合同の事前テストはなく、今回は2年振りの岡山走行となっていた。その初日がウエット、予選もウエットから路面コンディションが乾いていく難しい状況となっていた。以前から課題となっている予選順位を上げたいところだったが、うまくタイムアップできずに26番手グリッド。ドライコンディションとなった決勝では、スタートをうまく決めポジションを上げる。さらに、上位を狙うが、そこからペースを上げるには、ドライの走行時間があまりにも少なく24位(インタークラス：12位)でゴールしている。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

■榎戸育寛コメント

「金曜日が雨になり、予選はドライになることは分かっていたのですが、ウエットの状態が今ひとつでしたし、予選もセッション序盤はウエットパッチが残るコンディションでした。ラスト20分の勝負になったのですが、自分のライディングが噛み合わず8番手グリッド。3列目の真ん中からのスタートということで、いろいろ想定しながらレースを迎えたのですが、悪い方向にいてしまい順位を落としてしまいました。そこからは、追いつけることができたので、予選グリッド、スタートの順位がもっと上だったらと思うと悔しいですね。次戦は、その辺りを改善して挑みます」

■成田彬人コメント

「事前テストからレースウィークに入ってから、チームのおかげで、いいフィーリングが戻って来ていましたが、決勝で問題が出てしまい、混戦の中、厳しい展開になってしまいました。その問題以外は、今シーズンで一番いいフィーリングでしたし、やっとマシンセット、ライディング面で自分らしさが出て来たと思います。早くも次回は、最終戦になりますが最高のレースをお見せできるように全力で臨みます」

■千田俊輝コメント

「鈴鹿で負傷した左手は、ほとんど治り、事前テストで初めてST600で岡山を走りました。レースウィーク初日が雨になってしまい、もっと走り込みたかった部分が大きいですね。ドライコンディションでの課題があったので、予選で改善しようと思ったのが逆によくない方向にいてしまっていました。そこから朝のウォームアップ、決勝と自分の中でライディング面だったり、タンクパッドを足してみたり改善できた手応えがあったので収穫がありました。オートポリスは、ぶっつけ本番になりますが、チームと相談しながら前進できるように頑張ります」

■赤間 清コメント

「金曜の練習、そして公式予選がウエットコンディションになり、課題であったタイム出しが、今回もうまくいかず後方グリッドになってしまいました。ぶっつけドライとなったスタートは、いつも通り、うまく決まり2列分くらい前に行けましたが、新シケインをうまく攻略できず序盤でペースを上げることができなかったのが悔しいです。絶対的に走り込みが足りませんでした。次戦は、いい流れをつかんで、今シーズンを締めくくりたいですね」



このリリースのお問い合わせは 昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで